

長崎原爆資料館運営審議会 委員名簿

長崎原爆資料館運営審議会 委員名簿（任期：令和5年6月15日から2年間）

	区 分	氏 名	団 体 名	役職名
1	被爆者団体を 代表する者	田中 重光	一般財団法人 長崎原爆被災者 協議会	会長
2		朝長 万左男	長崎県被爆者手帳友の会	会長
3		川副 忠子	長崎県平和運動センター 被爆 者連絡協議会	副議長
4	学 識 経 験 の あ る 者	西田 充	長崎大学多文化社会学部	教授
5		中島 正洋	長崎大学原爆後障害医療研究所	所長
6		水嶋 英治	長崎歴史文化博物館	館長
7		原田 敬一	佛教大学	名誉教授
8		細谷 雄一	慶應義塾大学法学部	教授
9		中村 桂子	長崎大学核兵器廃絶研究センター	准教授
10	教育関係者	宮田 幸治	長崎市立城山小学校	校長
11	市議会議員	木森 俊也	長崎市議会	長崎市議会議員
12		山本 信幸	長崎市議会	長崎市議会議員
13		都留やすとし	長崎市議会	長崎市議会議員
14		中西 敦信	長崎市議会	長崎市議会議員
15	地元自治会を 代表する者	深堀 義昭	坂本校区連合自治会	会長
16	公益団体等を 代表する者	渡邊 正光	長崎の原爆展示をただす市民の 会	代表
17		大塚 久子	国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館 被爆体験記朗読ボランティア「被爆体 験を語り継ぐ永遠の会」	代表
18		調 漸	公益財団法人 長崎平和推進協 会	理事長
19	市民	草野 優介	市民（公募）	-
20		林田 光弘	市民（公募）	-

長崎原爆資料館運営審議会 小委員会 委員名簿

特に調査・検証が必要な論点と 専門的な視点	委員氏名等
被爆医療や放射線等に関する展示 ⇒原爆被爆に関する専門的な視点	長崎大学原爆後障害医療研究所所長 中島 正洋 委員 長崎県被爆者手帳友の会会長 朝長 万左男 委員
原爆投下に至る歴史に関する展示 ⇒日本近現代史、国際関係に関する 専門的な視点	佛教大学名誉教授 原田 敬一 委員 慶応義塾大学法学部教授 細谷 雄一 委員
核兵器をめぐる国際情勢に関する展示 ⇒核兵器に関する専門的な視点	長崎大学多文化社会学部教授 西田 充 委員
若い世代に自分事として捉えてもらうた めの展示、未来志向の展示 ⇒平和教育に関する専門的な視点	長崎大学核兵器廃絶研究センター 准教授 中村 桂子 委員
展示全体を通したストーリー性、展示の 配置や観覧動線 ⇒博物館学に関する専門的な視点	長崎歴史文化博物館館長 水嶋 英治 副会長

小委員会での意見一覧

小委員会での意見一覧

「被爆医療や放射線等に関する展示」

社会情勢・現状展示の評価・課題	展示の方向性	展示の内容
<p>【放射線の影響についての理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●平和教育を受けてきた学生でも放射線の影響については知らないことが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ●原爆による放射線被曝と原発事故による被ばくとの相違を理解できる展示が必要。 ●放射線によって起こるがんのメカニズムは、少なくとも2種類以上ある。これが長く健康被害に影響を与え精神的被害に繋がっているということをシステムティックに理解してもらえ展示が必要。 ●写真やグラフなどを利用しながら短い文章で伝える工夫が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ●基本的な放射線の影響については、まず図示することが大切。 ●最近の知見で、放射線によるDNA障害の視覚化、例えば細胞に放射線照射し修復していくかあるいは治らないといった様子を展示する。 ●新しいAI技術を用いてDNA損傷や修復、修復の工率でがんが起こるなどの仕組みを分かりやすく展示。 ●医学的・科学的知識が必要で、IT技術を含めながら小・中学生たちに分かりやすい展示を。 ●どの程度のボリュームにするのかというのは問題だが、視覚に訴えることは医学的映像でも可能であるため、二次元コード等利用しスペースの節約と同時にインパクトを与えられることができると思う。
<p>【生涯にわたって続く人体影響とストーリー性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●現在の放射線の被害の展示ではストーリー性が描けていない。ストーリーを持たせるために、医学的な記述や写真を充実させると分量的に相当なものとなる。現在のスペースですべてを伝える点が難しい。 ●原爆被害がいかに長引き多くの人々を苦しめていたかということと共に、被害を克服するための知見や努力の成果も併せて展示を行えば、特に海外からの来訪者が増えるような展示になるかと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ●ストーリー性を持たせ、どのように人の一生をカバーする人体影響が起こったかということを見られる展示にならないといけない。生涯を通して被曝者ほんの発症が続いていく、長年連れられない不安が現在も続く、というストーリーになる。 ●被曝によってなぜ発がんするか、なぜ白血病が発症するのか、わかりやすくコンパクトに展示できるとよい。 	

小委員会での意見一覧

「被爆医療や放射線等に関する展示」

社会情勢・現状展示の評価・課題	展示の方向性	展示の内容
<p>【放射線の特長性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 原爆の被害と実態に関する資料というのは最も価値があるもの、来訪者の方にも強い印象を与える展示だろうと思う。私自身も大変強い印象を受けた。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 外交や国際政治の観点から、世界は核兵器を単なる大きな爆弾と捉えていると感じることがあり、そうではないと伝えることが重要。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 外部被爆に併せ長期に渡る放射線による内部被爆を伴う特殊な爆弾であることを伝える必要がある。単なる大きな爆弾ではないことを伝えるために、キノコ雲に変わるロゴゴのようなものを作れないか。
<p>【胎児被爆・被爆二世】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 胎児被爆の影響はあり新しい知見もある。ただしインパクトが強過ぎる資料については配慮が必要。 		<ul style="list-style-type: none"> ● 被爆二世への影響についてもよく問われる。現状では不明であることも表示する必要がある。 ● 放射線影響研究所が、二世について遺伝子研究を行うことになったことも入れるべきかと思う。
<p>【世界の核実験被害】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● モニターが小さい。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 被害者援助、汚染された環境の修復という問題は世界的に注目されていて、今後、新しい科学的知見も出てくると思うので、注目していくべき。 ● 情報発信し世界に広めていくことも重要と思うので、世界の「ヒバクシャ」という形にまとめてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ● AIなどを使って、世界の核実験被害の証言をインタラクティブにしてはどうか。
<p>【世界へのアピール】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 世界の人たちに、放射線の影響についてまだまだアピールが足りない。 	<ul style="list-style-type: none"> ● どんなに原爆の影響が悲惨だったかということ、実際に見てもうることが一番大事である。 ● 「被爆者」と「ヒバクシャ」、共通する放射線による人体への影響というものを、世界にもっと知ってもらう展示が必要。 ● (アメリカ国内だけではなく) 先住民の方たちの被害、弱者が一番被害を受ける、その視点も必要。 	

小委員会での意見一覧

「被曝医療や放射線等に関する展示」

社会情勢・現状展示の評価・課題	展示の方向性	展示の内容
<p>【ジェンダーの視点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●放射線の障害による医学的、社会的影響について、ジェンダーの視点が重要。 ●ジェンダー問題は完全に学問的に説明されていない。 		

小委員会での意見一覧

「原爆投下に至る歴史に関する展示」

社会情勢・現状展示の評価・課題	展示の方向性	展示の内容
<p>【検討姿勢】</p>	<p>●歴史をきちんと見つけることが未来につながる、という姿勢に基づいて検討する。</p>	
<p>【世界史的な視点】</p> <p>●今の展示はかなり日本史に偏重していて、世界史の中で日本がどう動いたのか、大きな潮流がなかなか見えてこない印象がある。</p>	<p>●世界史の中で日本の位置づけ、日本史の中の地域の位置づけといった二つの視点が必要。</p> <p>●軍事力への信仰と平和思想の限界という二つの交錯の中で、戦前の日本の歴史と戦争の歴史、そして原爆投下を位置づけることによって世界史的な意味を理解してもらおう。</p> <p>●日本の歴史と国際的な関係の繋がりを、ダイナミックスに捉えて、今理解されている範囲で客観的にバランスを取った展示を。</p>	

小委員会での意見一覧

「原爆投下に至る歴史に関する展示」

社会情勢・現状展示の評価・課題	展示の方向性	展示の内容
<p>【多角的な視点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●教科書で学べる日中戦争から太平洋戦争に至る大きな流れとかなり重なってしまうため、「なぜ長崎の原爆投下に至ったのか」という疑問に対して必ずしも明快な答えを感じることができないのではないか。 ●広島展示には歴史の部分が無い。長崎は歴史的背景とストーリー性が既にあるが、平和の理念の後退等の記述が弱い。 ●1920年代から30年代にかけて平和思想が広まる中で、軍事力に頼って利益拡張する動きがあった。平和思想を育んでいくという潮流を日本が壊した。 ●国際的な潮流としての当時の各国がより破壊力のある兵器に魅了され核開発を行っていたことも事実。 	<ul style="list-style-type: none"> ●戦争という大きな時代の潮流と、それを理解するための新たな視点をポイントとしてそこで考えてもらうといったつくり。 ●トルーマンが原爆投下の決定をした本質的なところは明確でないため、原爆投下に対する一定の見解を展示するというのはなかなか難しいこと、（実際は）、原爆投下の現象面をしっかりと展示するようになるのではないかと思う。 ●時系列年表ではなくテーマ別に取り上げることもありやすい。 ●理解のためのポイントとして4つの視点でのコンテンツ作りがまずは重要。 	<ul style="list-style-type: none"> ●原爆投下に至った背景を理解するうえで必要な4つの視点 1 「平和思想の後退」 <ul style="list-style-type: none"> ハーフ平和会議、パリ不戦条約により平和思想が定着しつつあった直後の後退の流れ 2 「戦略爆撃の展開」 <ul style="list-style-type: none"> 日本による錦州空爆に続きゲルニカ、東京大空襲など一般市民に対する戦略爆撃の歴史 3 「核開発の歴史をより大きな大量破壊兵器の開発の歴史の中に位置づけること」 <ul style="list-style-type: none"> より大規模な殺戮が可能となった大量破壊兵器がいつどのように発展していったのかの検証 4 「核兵器使用の決定」 <ul style="list-style-type: none"> 原爆投下論争についての理解

小委員会での意見一覧
 「原爆投下に至る歴史に関する展示」

社会情勢・現状展示の評価・課題	展示の方向性	展示の内容
		<ul style="list-style-type: none"> ● 平和思想の後退、戦争に至り、核兵器開発から使用。そして平和思想の復活、といったフェーズごとの展示がいいと思う。 ● 核開発をアメリカ以外の国も行っていたこと、表舞台ではなく裏側の世界での事実も示していくことも重要。 ● 既に展示はあるものの、世界で核開発が進んでいた中で開発に警鐘を鳴らしていた方たちへの言及も必要。 ● 「平和思想」については、原爆投下に至るまでの歴史だけではなくその後の歴史も含めてはどうかと思う。19世紀から今にも繋がっているということと、戦略などに平和思想がどのように影響しているのかわかること。
【被害と加害のバランス】	<ul style="list-style-type: none"> ● 反省すべきところは反省すべき。他方で、原爆投下と直接リンクする形に読み取れるような展示になると核兵器使用が相対化される懸念があるので、慎重に。 ● 相対化になるような形を極小化しながら普遍的なメッセージになる側面を最大化する。 ● (国際的には、国際司法裁判所の意見などもあるものの) 長崎の視点からは、「原爆投下、核使用はどんなことがあってもいけない」とのメッセージを強化すべき。しかし被害のみの展示では無用な批判を招くのでバランスを取る必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 日本は加害者であり被害者でもありつつ、また思想後退した後に復興させていて、その後日本は戦争していない、というのでも必要な観点。 ● アメリカは広島・長崎の加害者であると同時に、国内でも、核実験に立ち会わされた人やビキニ環礁の核実験の被害者を抱えている。

小委員会での意見一覧

「原爆投下に至る歴史に関する展示」

社会情勢・現状展示の評価・課題	展示の方向性	展示の内容
	<ul style="list-style-type: none"> ● 侵略した側が悪で侵略された側が被害者という認識が一つあるが、大量破壊兵器の開発や戦時爆撃機、侵略戦争を各国が行い各々に加害、被害の両面がある。 ● 一面からではなく両面、バランスを取った見方で進めていくという考え方が必要。加害の歴史と同時に日本が世界的に追い詰められていくような部分を展示することで若い人たちが学べるように。 	
<p>【ストーリー性】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● メリハリ、ストーリー性が必要。世界がどのよう動いてきたか、その究極の結果としての1945年8月6日と8月9日であることを具体的にさせる。日本と世界の背景がストーリー性を持って読み解けるようにしないといけない。 ● 来館者が大きな流れを汲み取って理解し、なぜこうなったのか、そして今後どうすればいいのか、が分かるような展示をして、同様に歴史認識についても、立体的に理解できるように、原爆投下の関連で特に重要な事案を中心にストーリーを組み立てていく。 	

小委員会での意見一覧

「原爆投下に至る歴史に関する展示」

社会情勢・現状展示の評価・課題 【メッセージ性】	展示の方向性	展示の内容
【展示手法】	<ul style="list-style-type: none"> ● 長崎の展示で何に重きを置くか。最終的な目的は、若い人の記憶に留まらせると同時に、いかに核廃絶に繋げていくかといったメッセージが重要。国際情勢の複雑性を理解してもらおう展示をテクニカルにつくってもらえればと考えている。 ● スペースの問題の解決として、他の館と連携出来るものは連携したり、デジタル技術を活用し長崎独自のものを優先的に取り上げるべき。 ● 写真などの情報をどのように選択するのが重要。広島展示は写真が大きく記述は3・4行で文字ポイントも大きく読みやすい。モニターの大型化も必要。 ● 展示のスペースに関しては今の技術を使えば工夫次第と思うので、歴史的な潮流とそれを理解するための新たな視点をポイントとして考えてもらおうといったつくりにできれば。 	<ul style="list-style-type: none"> ● ストーリー性についてはスペースの問題もある。どのようにコンパクトにしているか、方法論での検討、AIの活用等も必要。 ● デジタル技術の導入は良い考えと思う。世界の歴史博物館の最近の傾向として、実物のリアルな展示と、実物とデバイスの組み合わせ、自宅からアクセスする方法の3つが主流。例えばデジタル技術を活用した疑似体験装置など。

小委員会での意見一覧

「核兵器をめぐる国際情勢に関する展示」

社会情勢・現状展示の評価・課題	展示の方向性	展示の内容
<p>【展示における基本的な姿勢】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ベルサイユ条約では「戦争のない時代」を目指して国際連盟が誕生した。その後、国際連合が誕生し、「核兵器のない時代」を目指した。今、目指しているのは、「大きな軍縮」の中での「核軍縮」。 <p>【ストーリー性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 現在の展示の自身は一直線でフラットな印象がある。 ● 「核兵器の時代」は上中下段の3段階で展示されていて構成が分かりにくい。 	<ul style="list-style-type: none"> ● いかにして中立的で多くの方に受け入れていただける展示を作るか。 ● 現実を伝え、テクニカルな視覚に訴えて、コンテンツを見て感じてもらう将来への希望を持つことができるスタンスの資料館になれば。 ● 気をつけたいのは、ヘイトにつながらないよう、確定した事実だけに焦点を当てていく必要がある。 ● キーワードは、「ストーリー性」「複雑さがあること」をシンブルにわかりやすく「メッセージ性」が挙げられるが、メッセージ性としては「二度と使われてはならない」というのが共通の思いだと思う。 <ul style="list-style-type: none"> ● 国際政治の背景が分かる展示を。 ● (国際情勢を) 立体的に理解し、より深く考え、更に実際どうすればいいのか考えることができる展示にすべき。 ● なぜ核軍縮がなされないのか、第1、2、3の核の流れを伝え考えさせる展示が必要。 ● 一人ひとりの来訪者の理解を促すためには事実の列記ではなくわかりやすいストーリーが必要。 ● 背景や国際政治、市民運動、それぞれ一つの塊として分けた方がいい。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 第1の核の時代：米ソ二大核大国の対峙 ● 第2の核の時代：旧ソ連からの流出、核の闇市場、地域への核拡散、核テロ ● 第3の核の時代：冷戦後の米国一極の時代からポスト冷戦後の多極化の時代。抑止どころかアグレッシブな使われ方をしている。 ● 次の時代を「第4の時代＝非核の時代か？」として中身を空白にすることも一案。

小委員会での意見一覧

「核兵器をめぐる国際情勢に関する展示」

社会情勢・現状展示の評価・課題	展示の方向性	展示の内容
<p>【象徴的な出来事や人のクローズアップ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 当時、今にも核戦争が起ころうと緊迫感があった1962年のキューバ危機に関する記述が非常に少ない。なぜ今が第3の核の時代の時代になっているのか説明するには過去の出来事も大切。 	<ul style="list-style-type: none"> ● ここ5年ほど世界が大きく核競争へ向かって動きつつあることを理解してもらおうと同時に、核廃絶のために努力・貢献した人々たちをクローズアップするというアップデートを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ● プラハ演説のビデオ、平和運動に貢献した方々のビデオや写真を展示するなど視覚に訴えるのは大事。 ● INF失効やプラハ演説等の言及しやすい事実と、更にNPT条約や核兵器禁止条約について現在の状況がどうなっているかを見せる。 ● ゴルバチョフ氏やレーガン氏など政治指導者が核軍縮に与えた影響なども展示してはどうか。 ● リーダーの重要性の解説の必要性はあるが、ポトムアップも重要。
<p>【考える機会を与える展示】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● キーワードは、「ストーリー性」「考える場・考えさせる場」「アップデート」「視覚に訴える、特に若い人の理解を深める」。 ● なぜ今が第3の核の時代になっているのかに重点を置きながら説明すると良いと思う。核の威嚇をさせないようにならなければならないのかという難しい内容を最大公約数の方に伝わるように実現していくことが重要。 	

小委員会での意見一覧

「核兵器をめぐる国際情勢に関する展示」

社会情勢・現状展示の評価・課題	展示の方向性	展示の内容
<p>【考える機会を与える展示】</p> <p>●本資料館には、一般の方々から各国の要人まで世界から多くの人が来る。それを踏まえた展示のあり方、メッセージの伝え方をどのようにするのが良いのか。介在するボランティアや解説員の運営側の観点も含めた議論も必要。</p>	<p>●冷戦中の軍縮条約はほとんど米ソを対象としたものだが、中国の核保有数が増え、ウクライナでは核兵器が使われる恐れがあり、核兵器が戦争には必要であるという認識が世界に広がってしまっただけということを来館者に考えてもらう機会が必要ではないか。</p> <p>●核兵器廃絶にどのような筋道があるのか、若い方たちに考える機会を与える。</p> <p>●展示室のそれぞれのポイントで何を自分が受け止めたかを考える必要がある。</p>	
<p>【メッセージ性】</p> <p>●本資料館には、一般の方々から各国の要人まで世界から多くの人が来る。それを踏まえた展示のあり方、メッセージの伝え方をどのようにするのが良いのか。介在するボランティアや解説員の運営側の観点も含めた議論も必要。</p>	<p>●メッセージは必要だがプロパガンダにならないように、バランスが大事、普遍的なメッセージを、と思う。</p> <p>●希望を描くといったことと同時に長崎から世界に向けて核兵器というものを二度と戦争に使ってはいけないというメッセージを、ストーリー性という意味でも伝えていく役割があるのではないか。</p>	
<p>【サイエンスと核兵器】</p> <p>●サイエンスと兵器、あるいはサイエンスと実際の核の問題が、今の展示では薄い。</p>		<p>●若い人たちに訴えるには、アイシユタインと核を考えるところから始めるなど、サイエンスと核の背景も必要。</p>

小委員会での意見一覧

「核兵器をめぐる国際情勢に関する展示」

社会情勢・現状展示の評価・課題	展示の方向性	展示の内容
<p>【希望につながる展示】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●放射線の健康被害の影響の非人道性、それと矛盾する形で核兵器を巡る世界情勢は危機感を増しているが未来もあるということを伝えたい。 ●NPT再検討会議に向けた実務者レベルでの協議などは米ソ間が緊張していたときも最低限の協議として続いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●国際的なコンセンサス事項が保持され、なんとか元通りにしたいと動いている、核軍縮の営みは続いていく、そこに希望を持てるかどうかという視点も必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ●平和大使や政策提案への道を示して、モチベーションを高めるような活動の展示を増やす。 ●展示の最後に希望を伝えるものがあるといい。（例えばモニュメントなど）芸術性を含めた形で空間全体で印象的なものを作っていくのがいいと思う。
<p>【展示手法】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●核兵器の開発の歴史に加え、現在の国際情勢については、視覚に訴えることが重要。単なる数字のアップデートのみではなくどのようなトレンドを示しているのか、近年増加している国と数の変遷も加えた方が理解してもらえらる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●若い方に親しみやすくするためには、AR等のデバイスを使うことも必要。YouTubeと組み合わせたり、オンデマンド対応の短い動画を展開するなど、IT技術を使ってアウトリーチしていくと良い。
<p>【核抑止力について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「核廃絶へと進んでいく、核廃絶を目指す」と同時に「核を使わせない」というメッセージが広島サミットで出された。日本が非核3原則の施策を続けている以上、核兵器を使わずに相手に核兵器を使わせないような政策が必要。 ●「使わせない」ということは、だから核兵器廃絶なのだ」ということが長崎の思いである。 		

小委員会での意見一覧

「若い世代に自分事として捉えてもらうための展示、未来志向の展示」

社会情勢・現状展示の評価・課題	展示の方向性	展示の内容
<p>【「自分事」として捉える】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 平和学習について、学ぶ側が受け身で「なぜそれを学ぶのか」という問題意識やモチベーションを開拓しないまま学ぶ結果、「自分とは関係ない」という感覚につながっていく。 ● 世代間や地域間のギャップが大きく、同じ日本語を話す、日本文化を知っている学生でも、ほぼ異文化コミュニケーションに近い。 ● どこに住んでいるか、どのような職業についているか、といった多様性があるので、自分事として捉えてもらえればいいが、いろいろなることを設定して試行錯誤になるのではないかと思う。 	<p>展示の方向性</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「原爆の実相を知る」ということは、今を生きる私たちにあって「今の世界を正しく理解し、かつ自分たちの未来を描くために必要な知識であり、必要な感性を養うものだ」といった感覚を養うことが必要。 ● キーワードは「共感力」。今を生きる私たちと共通項を見出せるような、人々の日常が奪われたというところをきちんと押さえておく。 ● 共感を持たせることは必要だが、それでもどうしても自分と関係ないという感じがしてしまうので、核問題を、若い世代が関心をもって環境問題などと結び付けることが重要。 	<p>展示の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 被爆前の長崎に残っている日常の写真のスナップを集めて、それを題材に教材や様々なものを作って提示する、レクナのプロジェクターもある。 ● (例えばひめゆり資料館のように) 日常生活の展示が最初にあってその後戦争の展示に、となると落差に驚き、考えさせられると思う。 ● 導入部分で若者の心を掴むような映像を流してはどうか。 ● 切迫感を伝えるものとして、終末時計を展示する。(西田委員)
<ul style="list-style-type: none"> ● (若い世代に) 核問題は抽象的な問題として捉えられているが、環境問題や貧困問題などへの関心は高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 被爆によって二度と帰ってこない命や生活に光を当てることが必要。 ● 展示の最後は「問い」で終わってほしい。あなたはどうしたいのか、どうするのか、これはあなたの問題だ、私たち一人ひとりが考えるべき問題だということ、多くの人が宿題として持ち帰っていくという構造にしていくことが必要。 ● 全て言葉で説明しきるといふより、ここにあるものからどう想像できるかという、(日常生活と戦争時の落差のような) 想像を助ける展示が大事。 	

小委員会での意見一覧

「若い世代に自分事として捉えてもらうための展示、未来志向の展示」

社会情勢・現状展示の評価・課題	展示の方向性	展示の内容
<p>【双方向発信の強化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● (原爆資料館を訪問していろいろなことを知ると) 簡単な解説は見せないうし、被害はわかっすぎてすごく辛く苦しい、また起こるかもしれない、さあどうしようという時に、考えたことを共有、発信する場が無い。 ● 来館者が資料館についてもっと知りたいと思っても、資料のごく一部しか展示していない。 	<p>●なぜ遠い昔の出来事ではないのか、なぜ今の自分にも起こり得るのか、という問いに対して、一人ひとりの訪問者に考えてもらえる材料を提供することが必要。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● (被爆資料や当時の生活などを) 「知らない」ということを前提にして、私たちの生活に結び付けて考えられる、イメージできるようなものにする。 ● 長崎のローカルではない人がきちんと距離感覚や地理感覚をイメージできるようにすることが必要。 	
<p>【「次の学び」につなげる】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 文字が小さく見辛い、言葉が難しい、情報量が多く消化できない、といった声の一方で、もっと知りたい、学びたい、という声もある。 ● 帰ってから何かやってみたいというときに、現在活動している団体などの情報が無い。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 一般の訪問者が自分の思いや問いを残せて、別の人が答える、といったコミュニケーションツールの検討が必要。 ● 多くの資料が眠っているのと同時に、多くの資料の中でなぜこれを出してどのような思いで展示しているのか、といった運営側の思いや、関わっている人たちの声を表にだしていくということも良いと思う。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ● 実際の展示の情報量を本当に伝えたいことに絞り、デジタル技術を活用して、より知りたい人が発展的に学習できるような展示を。 ● 周辺の被爆遺構などへ誘導する工夫が必要。 ● 現在活動しているボランティアグループなどを紹介する。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 団体の情報カードを置くなどして、実際のボランティア活動などにつなげていくこともできる。

小委員会での意見一覧

「若い世代に自分事として捉えてもらうための展示、未来志向の展示」

社会情勢・現状展示の評価・課題	展示の方向性	展示の内容
<p>【人と情報が集まる「ハブ」となる資料館へ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●原爆資料館について、一度学べば後はわかっただといような、あるいはもう1回行きたいと思わせていない現状がある。 ●展示の外国語表記の少なさやウェブサイトなどの分かりにくさ、海外向けの発信力の弱さなど、細かい課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ●原爆資料館を訪れるたびに新しい情報、学び、出会いがあり、新しいものが生まれるような場所になってこそ未来志向の姿といえる。 ●訪問回数を重ねると理解も深まってくるというところもあると思うので、例えば3年後訪問すると新しい資料が加わっていることなどは、教育においても重要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ●展示やイベントにおいて、社会の新しい動きを取り入れる。
<p>【年齢や知識に応じた展示】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●子どもたちの年齢層に応じて考えていく必要がある。また、見学前にどの程度教育を受けているかによっても理解度が異なる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●訪問者の原爆についての平均的な知識がどの程度か、事前に調査して準備していく必要があると思う。 	
<p>【世代間格差（デジタル）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●世代間でデジタルに対する格差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ●今の子どもたちにリアルに戦争や原爆の被害を理解してもらおうのが原爆資料館に必要な使命である、としたときに、今の若い人たちに届くようなハードウェア、ソフトウェアを考えていく必要がある。 	

小委員会での意見一覧

「展示全体を通じたストーリー性、展示の配置や観覧動線」

社会情勢・現状展示の評価・課題	展示の方向性	展示の内容
<p>【メッセージ・ストーリー性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● インプリント・アウトプリント機能において、どのターゲット層にするのかによってメッセージあるいはストーリーは違ってくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 資料館から発せられるメッセージというのは、過去の歴史の批判ではなくて未来志向の表現の方が説得力がある。 ● 両論併記など、多様な意見、見解を紹介することが望まれる。 ● 訴求したいコンテンツをわかりやすく理解してもらうためには、一定のストーリーが必要である。 ● 展示空間、展示ストーリーは、展示動線、つまり配置に左右されるため、意図を伝えたいならば、自由動線よりも強制動線が望まれる。 ● 今回入らなかった意見についてはもう少し時間をかけるような体制を作っていくことも考えなければいけない。 ● 常にアップデートしていかないといけない。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 限られた空間の中でバーチャル空間を含めて検討。
<p>【配置】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 時系列だけでなくフラットな感じがする。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 未読者に考えさせる、疑問を感じさせる（問いかけるような）展示を。 ● 論理的に理解できるように、強制動線を。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 大きな塊として、1つ目として史実関係を示す、2つ目の塊でなぜ核廃絶が進まないかということを考えてもらう、3つ目の塊で、それでも核軍縮に向けた取り組みが行われている、という形に。
<p>【年齢層による配慮】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 展示はかなり専門的であり、言葉の使い方や内容も、大人をイメージしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 年齢層による展示の仕方の工夫が必要。 	